

音楽Ⅰテスト	西洋音楽史（ロマン派）		教科書 『高校生の音楽Ⅰ』		P.46 ハバネラ P.132 西洋音楽史 ロマン派① P.136 西洋音楽史 ロマン派② P.138 オペラの世界	
	氏名		得点	／50 点	評価	

① 「西洋音楽史」の「ロマン派①」について、正しい文章になるように（ ）の中から1つ選び、○で囲みなさい。（各2点＝12点）

18世紀末、それぞれの民族に固有の歴史や文化を見直したり、個人の（ 理性 生活 感情 ）や想像力を重視したりする「（ 現実 ロマン 理想 ）主義」という新しい文化潮流が生まれ、諸芸術分野に大きな影響を与えた。19世紀の音楽は、（ 貴族 市民 農民 労働者 ）階級とともに発展し、（ 儀式 教会 集会 ）や宮廷だけでなく公開コンサートや私的なパーティーでも楽しまれるようになる。作曲家はフリーランスとして活躍するようになり、楽譜の出版も増加した。また、バガニーニやショパン、リストなどの「（ ヴィルトゥオーソ マエストロ マエストロ ）」と呼ばれる超絶的な演奏技術をもつ演奏家が登場した。

この時代には、歌曲やオペラの他、交響曲や交響詩、協奏曲、（ マスター キャラクター ヴァイオリン ）・ピース、バレエ音楽などのさまざまな器楽ジャンルが発展した。

② 「菩提樹 連作歌曲集《冬の旅》から」の説明として正しいものを次から1つ選びなさい。（2点）

ア 〈菩提樹〉は、連作歌曲集《美しき水車小屋の娘》の第5曲である。

イ 〈菩提樹〉の歌詞は、ミュラーによる詩に基づいている。

ウ 〈菩提樹〉では、恋人のいる町へ戻ろうとする青年の心情を歌っている。

エ 〈菩提樹〉を作曲したシューマンは、600曲以上の歌曲を残した。

③ 「西洋音楽史」の「ロマン派②」について、それぞれ正しい文になるように（ ）の中から1つ選び、○で囲みなさい。（各2点＝16点）

ア （ 民族 古典 ）主義の作曲家は、伝説や歴史、風景、民謡などに着想を得た作品をつくった。

イ （ ロシア チェコ ）国民音楽の創造に情熱を傾けたスメタナは、連作交響詩《我が祖国》を作曲した。

ウ シューベルトやシューマンは、歌と伴奏が一体となった（ 合唱 歌曲 ）を多く残した。

エ 器楽の分野では、文学的、絵画的内容を表現する（ 交響詩 協奏曲 ）などの作品が生まれた。

オ （ バロック 古典派 ）時代に生まれたオペラは、ロマン派の時代に黄金期を迎える。

カ ロマン派の作曲家は、ドラマと音楽の融合を目指し（ オペラ 交響詩 ）をつくった。

キ ウェーバーは、（ ドイツ イタリア ）語によるロマン派オペラを確立した。

ク フランスで活躍したオффエンバックは、（ オペレッタ オペラ・コミック ）を次々と発表した。

④ オペラ「カルメン」や劇中で歌われる〈ハバネラ〉について、正しい文章になるように（ ）の中から1つ選び、○で囲みなさい。（各2点＝10点）

オペラ《カルメン》は、（ ビゼー ヴァーグナー ヴェルディ ）による作曲で、1875年に初演された。〈ハバネラ〉は、第1幕で主人公（ ホセ ミカエラ カルメン ）によって歌われる（ 重唱 アリア 合唱 ）で、原語歌詞は（ フランス スペイン ドイツ ）語である。〈ハバネラ〉には、（ ハイチ ハバマ キューバ ）の首都ハバナで流行した舞曲のリズムが使われている。

⑤ 授業で鑑賞したロマン派の作品について、曲の印象や感じたこと、考えたことなどを書きなさい（1曲でも複数でもよい）。（10点）